

1. 年齢階級別退院患者数

平成28年度に当院を退院された患者さまを10歳刻みの年齢階級別に集計しています。

年齢階級（歳）	0歳代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
退院患者数（人）	235	86	110	159	270	495	1275	1627	1365	319

当院は地域中核病院、地域医療支援病院として機能しています。
社会の高齢化に伴い60歳以上の患者さまが多く77%を占めています。

2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

症例数の多いDPC14桁分類（DPCコード）を各診療科別に集計しています。

【内科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等 1 -なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	37	13.97	12.84	0.00%	75.24
180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等 2 -なし	30	18.53	19.24	6.67%	79.27
100070xx99x000	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。） （末梢循環不全なし。） 手術なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	28	14.25	11.48	0.00%	66.07
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	28	20.75	21.25	21.43%	83.46
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	20	15.45	12.43	5.00%	76.70

内科では慢性腎臓病の疾患が最も多くなっています。

慢性腎臓病では腎臓以外に心臓病、貧血、脳血管障害、骨疾患など他の臓器の併発症が多く、全身管理を包括的に診療することが重要です。
総合内科専門医、糖尿病専門医、透析専門医、プライマリ・ケア専門医を中心に他診療科とも密に連携をとり、腎機能の温存を目指しています。

【消化器内科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） その他の手術あり 手術・処置等 2 -なし	47	14.21	11.74	0.00%	75.64
060370xx99x00x	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。） 手術なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	34	11.24	12.75	0.00%	65.29
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	32	17.56	11.06	0.00%	79.78

060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等 2 - なし	30	9.50	9.02	0.00%	72.70
060190xx99x0xx	虚血性腸炎 手術なし 手術・処置等 2 - なし	30	8.33	9.19	0.00%	70.47

消化器内科では肝細胞癌の疾患が最も多くなっています。
当院は日本肝臓学会の認定施設であるとともに西播磨地域で唯一の肝疾患専門医療機関に選定されています。西播磨肝癌撲滅運動の中心的役割を担い地域医療に貢献しています。

【循環器科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
050050xx99200x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 - 2 あり 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	187	3.47	3.22	0.00%	72.66
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 - 1 あり 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	167	3.51	3.06	0.60%	71.12
050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等 1 - なし、1, 2 あり 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	119	6.87	4.71	0.00%	71.46
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等 2 - なし	74	6.88	5.51	0.00%	64.55
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等 1 - なし 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	73	20.33	17.95	1.37%	81.11

循環器科では虚血性心疾患に対する圧ワイヤーを用いた生理的虚血検査や血管内超音波検査や光断層法（OCT）を用いた血管内イメージングを併用した心臓カテーテル検査入院が最も多くなっています。この検査は狭心症、心筋梗塞などの最終検査として有用です。
カテーテル検査で異常を認めた患者さまには内服療法に加えて、心臓カテーテル治療を行っています。

【小児科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
100380xxxxxxxx	体液量減少症	43	5.72	9.33	0.00%	2.51

040130xx99x0xx	呼吸不全（その他） 手術なし 手術・処置等 2 - なし	36	6.67	11.46	0.00%	2.50
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上） 手術なし 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	35	3.69	6.18	8.57%	0.00
0400801199x00x	肺炎等（1歳以上15歳未満） 手術なし 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	13	6.38	5.79	0.00%	4.38
180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等 2 - なし	6	7.17	19.24	0.00%	3.17

小児科では体液量減少症が最も多くなっています。
その主な疾患は脱水症です。小児は感染や胃腸炎など脱水の原因となる疾患に罹る機会が多く、病気に罹ると経口的な水分摂取量が少なくなりやすいためです。

【外科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
060040xx99x60x	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 6あり 副傷病なし	62	3.52	4.41	0.00%	64.03
060040xx99x50x	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 5あり 副傷病なし	41	3.68	4.50	0.00%	68.56
060035xx99x60x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 6あり 副傷病なし	38	3.11	4.48	0.00%	79.26
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等 1 - なし 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	32	9.91	7.61	0.00%	65.41
060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 手術・処置等 1 - なし 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	22	8.18	9.08	4.55%	73.14

外科では消化器系疾患が多く全体の9割を占めています。従来的一般外科・消化器外科治療に加え3D腹腔鏡下を用いた低侵襲手術に積極的に取り組んでいます。
診断群分類別では直腸癌の化学療法のために計画的入院を繰り返している患者さまが最も多くなっています。

【整形外科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		

160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	62	41.84	27.63	32.26%	84.21
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再置換術等	41	34.68	26.26	0.00%	73.20
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし	36	5.14	5.49	0.00%	54.97
160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。） 手術なし 副傷病なし	36	37.83	20.57	0.00%	82.58
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。） 腱縫合術等	29	8.62	11.91	0.00%	46.59

整形外科では大腿骨頸部骨折等の高齢者骨折を始めとした外傷疾患が多くなっています。
股関節、脊椎疾患、膝関節の手術を積極的に行うとともに、機能障害を残さぬようリハビリテーションの充実を図っています。

【形成外科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 - なし	13	4.31	8.78	0.00%	81.62
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	6	4.83	9.87	0.00%	81.50
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 - なし	5	3.60	4.28	0.00%	34.20
080006xx97x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） その他の手術あり 手術・処置等 2 - なし	5	7.60	10.60	0.00%	75.20
020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等 2 - なし	4	3.75	3.44	0.00%	72.50

形成外科では黒色腫以外の皮膚の悪性腫瘍に対する皮膚悪性腫瘍切除術、皮弁作成術を行った症例が形成外科72症例の25%を占めています。
手術後は外見だけでなく、機能についても治療を行っています。

【脳神経外科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
010060x299040x	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手術なし 手術・処置等 1 -なし 手術・処置等 2 - 4あり 副傷病なし	38	21.16	16.54	10.53%	75.79
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	15	15.87	9.87	6.67%	79.87
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	13	31.54	19.35	53.85%	68.38
010070xx9910xx	脳血管障害 手術なし 手術・処置等 1 -あり 手術・処置等 2 -なし	10	3.00	3.25	0.00%	66.50
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	9	19.67	7.52	0.00%	64.89

脳神経外科では脳血管障害、特に脳梗塞の入院が多くなっています。
脳保護療法としてエダラボン（ラジカット）を用いた療法が脳神経外科全285症例の約23%を占めています。

【産婦人科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上） 手術なし 手術・処置等 2 -なし 副傷病なし	19	5.21	6.18	0.00%	1.68
120170xx99x0xx	早産、切迫早産 手術なし 手術・処置等 2 -なし	12	7.67	20.79	16.67%	29.17
120070xx01xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腔式を含む。） 開腹によるもの等	12	13.83	10.36	0.00%	59.67
12002xxx03x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮内膜搔爬術 手術・処置等 2 -なし	10	2.40	2.61	0.00%	63.90
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	10	8.60	10.05	0.00%	45.70

産婦人科では新生児入院による妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害が最も多くなっています。
その主な疾患は新生児黄疸です。当院で生まれた赤ちゃんを小児科医と連携して病気のチェックを行っています。

【耳鼻咽喉科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
030400xx99xxxxx	前庭機能障害 手術なし	22	4.64	5.24	0.00%	66.55
030350xxxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	21	7.33	7.47	0.00%	61.81
030230xxxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	15	7.20	8.12	0.00%	18.73
100020xx01x0xx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除等 手術・処置等 2 - なし	9	8.11	9.27	0.00%	60.11
130030xx97x00x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	5	3.20	9.18	0.00%	23.80

耳鼻咽喉科では急性疾患である末梢性めまいが最も多くなっています。
めまいは様々な原因で起こるため、どんなときに、どんなめまいが、どんな症状を伴って、どのくらいのあいだおきたか、診断のポイントが重要な疾患です。
抗めまい剤を投与し安静を保ちます。

【放射線科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
070040xx99x2xx	骨の悪性腫瘍（脊椎を除く。） 手術なし 手術・処置等 2 - 2あり	1	5.00	24.03	0.00%	76.00
010010xx99030x	脳腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 - なし 手術・処置等 2 - 3あり 副傷病なし	1	3.00	9.60	100.00%	69.00

放射線科では転移性脳腫瘍、転移性骨腫瘍に対する放射線療法を行っています。

【皮膚科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
161070xxxx00x	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	8	3.38	3.64	0.00%	62.38
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	8	8.25	11.97	0.00%	73.00
161060xx99x0xx	詳細不明の損傷等 手術なし 手術・処置等 2 - なし	2	2.00	4.19	0.00%	53.00
100100xx99x0xx	糖尿病足病変 手術なし 手術・処置等 2 - なし	2	75.00	23.37	0.00%	61.00
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等 2 - なし 副傷病なし	1	1.00	7.52	0.00%	22.00
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	1	2.00	5.24	0.00%	73.00

皮膚科では急性膿皮症が、薬物中毒（その他の中毒）が多くなっています。急性膿皮症の主な疾患は蜂窩織炎です。高熱を伴い、外来治療では十分な治療を行えない患者さまの入院治療を行っています。その他の中毒の主な疾患はマムシ咬傷です。

【泌尿器科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 1 - なし 手術・処置等 2 - なし	54	10.20	7.44	0.00%	74.63
11012xxx040x0x	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき） 手術・処置等 1 - なし 副傷病なし	18	2.39	2.82	0.00%	62.22
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	14	6.71	12.43	0.00%	63.29
110070xx99x0xx	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - なし	12	6.00	10.42	0.00%	68.83
110080xx9902xx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 - なし 手術・処置等 2 - 2あり	11	28.55	26.25	0.00%	73.55

泌尿器科では上部尿路疾患が多くなっています。腎結石や尿管結石に対し1泊2日で体外衝撃波腎・尿管結石破碎術を行っています。
次いで膀胱癌に対する膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）を行った診断群分類が多くなっています。

【麻酔科】

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均 / 年齢
			自院	全国		
180040xx99x0xx	手術・処置等の合併症 手術なし 手術・処置等 2 -なし	1	1.00	10.01	0.00%	68.00
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	1	16.00	8.96	0.00%	79.00
010111xxxxx0xx	遺伝性ニューロパチー 手術・処置等 2 -なし	1	18.00	13.33	0.00%	64.00
071030xx99xxxx	その他の筋骨格系・結合組織の疾患 手術なし	1	15.00	10.31	0.00%	64.00

麻酔科では疼痛緩和目的入院が多くなっています。主な疾患は帯状疱疹後神経痛、末梢神経障害です。

3. 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

現在、日本で最も多い5大癌（胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌）の人数を初発のUICC病期（ステージ）分類別、及び再発に分けて集計しています。

部位	UICC病期分類(ステージ) (初発)					再発
	I	II	III	IV	不明	
胃癌	35	10	12	30	30	12
大腸癌	21	23	76	24	128	70
乳癌	17	11	8	5	23	13
肺癌	0	0	1	6	3	3
肝癌	5	6	0	6	22	47

UICC分類第7版

※UICC病期（ステージ）とは、がんの進行状態を占めたものであり、0期からIV期の5つに分類されます。
0期に近いほどがんが小さくとどまっている状態であり、IV期に近いほどがんが広がっている状態となります。

当院では大腸癌の症例が多く、次いで胃癌、肝癌、乳癌となっています。
内視鏡的治療、腹腔鏡下治療、化学療法、放射線療法を行っています。また、肝癌の再発には血管塞栓術や薬物療法を行っています。

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者さまの人数を重症度別に集計しています。

重症度は成人市中肺炎診療ガイドライン（日本呼吸器学会）による重症度分類システム（A-DROP）を用いて分類しています。

○成人市中肺炎

普段の生活の中にかかる肺炎のことです。

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	18	13.39	51.78
中等症	84	16.73	79.92
重症	18	24.56	85.44
超重症	7	13.29	83.71
不明	0	0.00	0.00

患者数が多いのは中等症の患者さまとなっています。

平均年齢が後期高齢者の年齢層になっており、成人市中肺炎は高齢になるほど重症化し、入院日数も長期化しています。

5. 脳梗塞のICD10別患者数等

脳梗塞の病型別の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を集計しています。

最も医療資源を投入した傷病名の脳梗塞ICD-10コードの上3桁で集計しています。

ICD10分類	傷病名	発症日から	症例数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45\$	一過性脳虚血発作及び関連症候群	3日以内	6	8.00	57.33	0.00%
		その他	0	-	-	-
I63\$	脳梗塞	3日以内	88	24.17	76.98	20.59%
		その他	14	14.86	72.93	0.00%
I65\$	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	2	25.00	67.00	5.00%
		その他	18	6.44	69.39	0.00%
I66\$	脳動脈の閉塞及び狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	0	-	-	-
		その他	2	9.50	51.00	0.00%
I679	脳血管疾患, 詳細不明	3日以内	0	-	-	-
		その他	1	3.00	14.00	0.00%

脳梗塞入院は国際統計分類として、I63\$（脳梗塞）と分類されます。発症3日以内の急性期脳梗塞が集計対象の67%を占めています。急性期脳梗塞の患者さまの平均年齢は76歳で高齢者の方が多くなっています。平均して24日間程度の入院期間で治療とリハビリを行い約80%の方が自宅もしくは施設に帰られています。

6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

診療科別に手術症例数の多い上位5症例について、主要手術の平均術前日数、平均術後日数などを示したものです。

○Kコード

手術術式の点数表コードです。

【内科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K610-3	内シャント又は外シャント設置術	12	4.67	30.58	8.33%	69.83
K635-3	連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	10	11.70	14.20	0.00%	71.40
K654	内視鏡的消化管止血術	6	6.17	17.67	16.67%	74.00
K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	5	9.40	38.80	20.00%	71.80
K0842	四肢切断術（上腕、前腕、手、大腿、下腿、足）	3	17.00	58.00	0.00%	67.00

内科では人工腎臓導入に対する内シャント設置術、腹膜灌流に対する連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術が主な手術となっています。

【消化器科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	175	0.11	1.30	0.00%	67.37
K6152	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	54	3.80	10.31	0.00%	75.24
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	34	1.74	23.53	2.94%	78.82
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	34	1.03	8.26	0.00%	73.47
K654	内視鏡的消化管止血術	30	1.47	13.50	0.00%	69.10

消化器内科では大腸ポリープに対する内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術を最も多く行っています。
次いで肝腫瘍に対する治療の肝動脈塞栓術（TAE）となっています。

【循環器科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	105	1.81	4.30	0.00%	72.10
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの）	48	1.81	4.44	0.00%	65.75
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	32	2.47	6.56	6.25%	75.34
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）	29	5.62	9.07	3.45%	81.00
K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他のもの）	28	2.82	4.39	0.00%	63.00

循環器科では虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症）に対する経皮的冠動脈ステント留置術、心房粗細動に対するカテーテル心筋焼灼術といった心臓カテーテル治療の症例が多くなっています。

【小児科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K653-3	内視鏡的食道及び胃内異物摘出術	1	0.00	1.00	0.00%	2.00
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	1	0.00	0.00	100.00%	0.00
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	1	0.00	0.00	100.00%	0.00

小児科の入院症例で手術として扱われるものは、仮死状態で出生した新生児に対する蘇生術があります。

【外科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	44	1.30	9.18	0.00%	65.50
K6335	ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	30	0.30	4.30	3.33%	65.60

K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他に設置した場合）	26	2.77	7.85	0.00%	65.23
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	26	0.65	6.42	3.85%	66.54
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	21	3.48	18.14	0.00%	76.19

外科では胆嚢炎や胆石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術が最も多く、次いで鼠径ヘルニアに対する鼠径ヘルニア手術となっています。
消化器内科医、麻酔科医、病理医とともに術前術後カンファレンスを行い治療方針を総合的に検討し、患者さまに最適な治療を提供しています。

【整形外科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0821	人工関節置換術（肩、股、膝）	57	1.25	33.39	0.00%	72.47
K0461	骨折観血的手術（肩甲骨、上腕、大腿）	50	2.56	38.64	22.00%	80.74
K0462	骨折観血的手術（前腕、下腿、手舟状骨）	29	2.24	28.90	0.00%	60.59
K0483	骨内異物（挿入物を含む）除去術（前腕、下腿）	29	0.41	2.93	0.00%	55.79
K0811	人工骨頭挿入術（肩、股）	25	5.12	33.28	40.00%	81.20

整形外科では膝関節・股関節に対する人工関節置換術の手術が多くなっています。次いで四肢の骨折的観血的手術が多くなっています。
高齢者に対して内科医、麻酔科医と検討し積極的に手術療法を行って早期離床ができるように治療を行っています。

【形成外科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	12	0.83	2.42	0.00%	81.00
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上～6cm未満）	5	0.80	1.40	0.00%	55.80
K2193	眼瞼下垂症手術（その他のもの）	4	0.75	2.00	0.00%	72.50
K0151	皮弁作成術、移動術、切断術、遷延皮弁術（25cm未満）	3	1.00	3.33	0.00%	54.33

K0302	四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術（手、足）	2	1.00	2.50	0.00%	78.00
-------	-------------------	---	------	------	-------	-------

形成外科では皮膚悪性腫瘍に対する皮膚悪性腫瘍切除術が最も多くなっています。
次いで皮下腫瘍に対する皮膚、皮下腫瘍摘出術となっています。

【脳神経外科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	15	1.67	12.47	13.33%	80.53
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	12	0.92	48.67	41.67%	67.75
K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	6	5.67	5.17	0.00%	77.33
K6092	動脈血栓内膜摘出術（内頸動脈）	6	6.33	11.50	16.67%	67.33
K1742	水頭症手術（シャント手術）	5	5.00	24.60	20.00%	81.80

脳神経外科では慢性硬膜下血腫に対する慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術が最も多くなっています。
次いで脳動脈瘤の破裂を防ぐため、瘤内に血流を遮断する脳動脈瘤頸部クリッピングを行っています。

【産婦人科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K861	子宮内膜搔爬術	22	0.50	0.68	0.00%	52.95
K8881	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（開腹によるもの）	12	1.83	12.92	0.00%	60.17
K867	子宮頸部（腔部）切除術	12	0.92	4.67	0.00%	42.50
K877	子宮全摘術	8	1.38	10.63	0.00%	44.75
K885	腔式卵巣嚢腫内容排除術	6	0.00	0.33	0.00%	62.17

産婦人科は子宮粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮体癌疑いに対して行う子宮膜搔爬術が最も多くなっています。
次いで卵巣腫瘍に対して行う子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（開腹によるもの）、子宮頸部上皮異型成・異型度3に対して行う子宮頸部（腔部）切除術となっています。

【眼科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K28210	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	71	0.00	0.00	0.00%	78.58

眼科では白内障手術を行っています。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	16	1.06	5.88	0.00%	20.13
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型〔選択的（複数洞）副鼻腔手術〕	11	1.00	5.18	0.00%	65.36
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術ⅠⅤ型（汎副鼻腔手術）	10	1.00	5.50	0.00%	57.90
K4631	甲状腺悪性腫瘍手術（切除）	6	1.17	6.17	0.00%	66.33
K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	4	1.00	0.75	0.00%	6.25

耳鼻咽喉科では扁桃肥大、扁桃炎等に対して行う口蓋扁桃手術が最も多くなっています。
次いで慢性副鼻腔炎に対して行う内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型Ⅳ型となっています。

【泌尿器科】

Kコード	名称（部位）	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	52	0.12	1.12	0.00%	62.25
K80361	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	32	1.09	8.75	0.00%	74.97
K80360	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他のもの）	27	1.07	8.41	0.00%	73.04
K773	腎（尿管）悪性腫瘍手術	10	1.00	17.90	0.00%	71.30
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	9	0.56	3.78	0.00%	66.56

泌尿器科では腎結石や尿管結石に対し1泊2日で体外衝撃波腎・尿管結石破碎術を最も行っています。
次いで膀胱癌に対する膀胱悪性腫瘍手術となっています。

7. その他（DIC,敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

播種性血管内凝固、敗血症、真菌症、手術・術後の合併症の患者数と発生率を集計しています。

○播種性血管内凝固

感染症などによって起こる、全身性の重症な病態です。

○敗血症

感染症などによって起こる、全身性炎症反応の重症な病態です。

○真菌症

真菌による感染症です。

◇手術・処置などの合併症

手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などがあげられます。

合併症は、どのような術式でもどのような患者さんでも一定の確率で起こり得るもので、医療ミスとは異なります。

最投入DPC分類	傷病名	入院契機	患者数	発生率
130100	播種性血管内凝固	同一	0	0.00%
		異なる	24	0.40%
180010	敗血症	同一	44	0.74%
		異なる	57	0.96%
180035	その他の真菌感染症	同一	0	0.00%
		異なる	3	0.05%
180040	手術・処置等の合併症	同一	49	0.82%
		異なる	2	0.03%

医療の質の改善に資するため、臨床上少しでも改善すべきものとして定義される感染症および合併症の発症率を示したものです。

「入院契機」で入院の原因となった病気がもとで感染症や合併症を発症した場合を「同一」、入院の原因とは異なって感染症や合併症を「異なる」としています。

当院においては入院契機と同一病名の症例が少なく、免疫力が低下している時に合併して発症するケースが多いことがわかります。

手術・処置等の合併症については合併症を主訴として入院されていることがわかります。